「柏崎の水」

宮川の清水不動尊

宮川から国道３５２号線を椎谷方面に向かう。宮川の北端、集落が途切れ左手に海岸が開けると、そこに宮川の清水不動尊（清水様）への入り口がある。国道から山側へすすむ小径へ入り１０数メートルほどゆくと、清冽な清水が豊富に湧き出しているのがみえる。清水の流れは、今来た細い道の脇を伝い国道の下を通って、海に注ぎだしている。

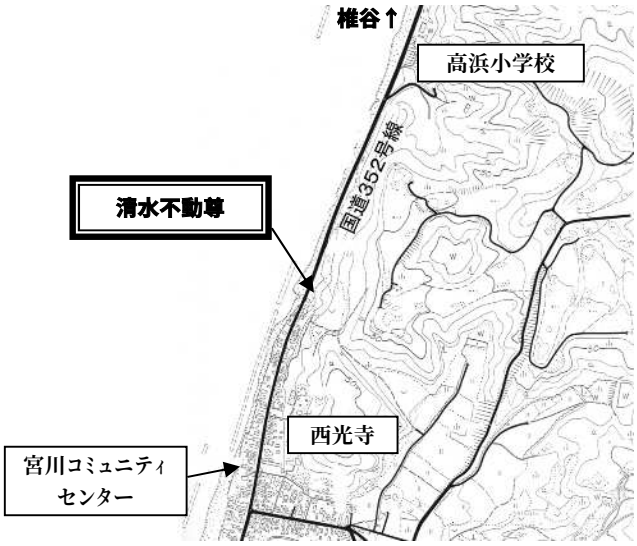
明治２２年頃までの宮川について書かれているという「越後宮川記録集成」（加藤勝太郎著）では、この清水を次のように記している。

「清水の神庫：下町の端 汐干浜に砂子坂の上の山から年中流れる清水の溜め池があり、茲に二坪位の神堂がある。下に池、次に田となり、国道へ出る。集落が出来た始めからならん。神堂は村の信者が手入、改築、現在に至る。」

この清水がいつごろ湧出し人々に利用されるようになったかは定かでないが、由来を示す伝説が残っている。

遠い昔、ある者がこの地を開墾しようとしたが、荒地で水源がなかった。そこで、椎谷の不動尊に祈願することにした。不動滝で沐浴し、不動尊で「夢でお告げがありますように」と一心に願ったところ、水が湧く夢をみた。

宮川の清水　右手奥が不動尊



お告げを信じて、水田を拓き榎の木の下を掘ってみると、みごと清水が湧き出した。その者は自分が信仰した不動尊一体を、椎谷の不動堂王に願ってこの地に勧請安置し、清水不動尊として崇敬したという。

清水は宮川の下町地域の人々にとって、なくてはならない生活用水であった。日ごろより下町の人々を中心に、不動尊とその周辺が丹念に手入れされた。また、かつては毎年７月１日がおまつりの日であり、西光寺のご住職が法要を行っていたとのことである。（ちなみに７月１日は椎谷観音堂の法要の日であり、また、椎谷の馬市が行われていた日であった。）昭和５３年には、不動尊の建物が地元の多くの人々の寄付により改築されている。

古くから宮川の人々の生活を支えてきた清水であったが、水道の普及によりその役割を終えた。しかし、その佇まいは、かつて多くの人々がここに集い、さまざまな用途に清水を利用していた様子を想像させる。

参考文献
「越後宮川記録集成」加藤勝太郎(著) 1984 （224 ｶﾄ）
「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 1972（388 Ｋｷﾖ）
「高浜の姿　昭和 33 年」柏崎市立高浜小学校 1958 （224 Ｋﾀｶ）
「高浜ものがたり」柏崎市立高浜小学校 1993 （224 Ｋﾀｶ）
「高濱町概覧」高浜町役場 1921（318.2 ｲﾉ）